

第 1 回地区懇談会（藤沢第二地区）の概要	
日 時	平成 29 年 8 月 2 日（水）午後 7 時～午後 9 時
場 所	東藤沢公民館
出席委員	青木友史委員 後田博文委員 臼井秀委員 喜入康文委員 小山輝久委員 齋木宏之委員 佐藤トク子委員 関谷善徳委員 羽鳥貞夫委員 松下庄一委員
欠席委員	阿部征雄委員
傍聴者	5 名
○委員意見 ・東藤沢は、駅から近い。昔は、舗装がされていなかった場所も多く、長靴で駅まで行った。物販店舗も増え、便利である。 ・道路は舗装されたが、依然、幅員が狭い道路が多い。市内循環バスは、小型なので、路線を誘致したい。 ・住宅が密集しているので、災害発生時の対応が課題である。高齢者も多く住んでいるため助け合いが重要だが、高齢世帯の中には声かけを嫌う人も居り難しさを感じている。 ・東藤沢は、まちが形成されて約 50 年経つ。昔は、雑木林や畑も多かった。雨天の際は、長靴が必需品というのは同感である。 ・この地区は、「0」（ゼロ）から住民が作り上げたこともあり、他の地域にはない結束力があると思う。公民館の開設にも、住民が深くかかわっている。「ささえあい東藤沢」ができたのも、この地区の良い例だと思う。今後も、基本を崩さず、自分たちが作ってきた「このまち」を大切にしていきたい。 ・高齢化の話題があったが、各住宅が、親の代から子の代に引き継がれないことが多いようだ。親の代が居なくなってしまうと、地域外から来た新しい世帯が住む。新しい世帯は、地元のコミュニティに溶け込むのが難しいようであり、課題と認識している。 ・地区内には、空き家も増えているようだ。 ・地区の児童の多くは、藤沢東小へ通っている。しかし、中学になると、線路を境に、東藤沢 6 丁目から 8 丁目は上藤沢中学校、東藤沢 3 丁目から 5 丁目（1・2 丁目も同様）は藤沢中学校へ通うこととなり、分断されてしまう。この点については、中学も両者が一緒の学校へ通えた方が良くと思う。 ・老人クラブについては、入会者が減少している。老人憩いの家のことについては、公共施設マネジメントでも取り上げているが、自治会館と老人憩いの家の境を無くして、相互の交流を図ることは、必要なことだと思う。それぞれ、多くの行事があるので、両者が関わっていくことが大事である。 ・上藤沢中学校は、藤沢地区内での配置が悪い。特に、国道 463 号バイパスの東側	

に住宅が多く、多くの生徒が国道を横断しなければならないため、危険ではないか。加えて、上藤沢中学校は、地区の中心部にあった方が、地域との関わりが強くなるのではないか。

→配置については、課題もあると感じている。藤沢地区には複数の学校があり、将来、統合により空くことも考えられる。学校は広大な敷地（2～3ha）を必要とするため、条件の良い小学校跡地に移転するという方法も考えられる。

- ・学校のPTAの活動は、様々な内容があるが、校外活動部の活動として、道路標識や路面標示（横断歩道含む）を見守り、児童・生徒の安全確保を担っている。その中で、いくつか設置をお願いしたい事項がある。

→市（交通防犯課）へ相談願いたい。

- ・建物の老朽化は見て取れる。校舎の補修や備品の更新に、バザーなどで集めたお金の中から支出しているものがある。こうしたモノについては、是非予算をつけて欲しい。

- ・東藤沢に長年住んでいるが、心地よく感じる。この地区で、気を付けなければならないのは、河川の氾濫による浸水である。毎年、地震に対する防災訓練を実施しているが、大雨を想定した（気象リスクを想定した）訓練も必要ではないかと感じる。

- ・昔から住んでいる住民と別の場所から移り住んだ住民が上手く混ざり合ってコミュニティを形成できればよいが、現状は難しいようだ。また、若い世代の自治会離れも深刻である。

- ・地区内に、公民館や学校以外の公共施設がなく、グラウンドがない。公民館については、地域住民の交流の場となっているが、利用者の多くは年配者である。公民館のつくり（機能）については、サロンや椅子を多く配置するなど、利用者を意識した見直しが必要ではないか。

- ・地区に配置する公共施設は、自治会館や老人憩いの家といった集会場と公民館の配置関係、役割分担を見直し整理すれば、上手くいくのではないか。

- ・藤沢第二地区は、他の8地区と比較して恵まれていると思う。例えば、金子地区や東金子地区と比べると、範囲が狭い。他の地区は、もっと大変な思いをしている。駅や物販店舗から近いのだから、贅沢は言っていられない。公民館や学校の多目的化は、良い考えだと思う。

→地区懇談会を通じて、地区で求められている事項を洗い出し、公共施設の再整備につなげていきたい。

第2回地区懇談会（藤沢第二地区）の概要	
日 時	平成 29 年 8 月 21 日（月）午後 7 時～午後 9 時
場 所	東藤沢公民館
出席委員	阿部征雄委員 後田博文委員 臼井秀委員 喜入康文委員 小山輝久委員 齋木宏之委員 佐藤トク子委員 関谷善徳委員 羽鳥貞夫委員 松下庄一委員
欠席委員	青木友史委員
傍聴者	6 名
○委員意見 ・今後、学校の統廃合をして再整備する場合、規模を大きくするとしたら高層化することになるのか。限られた敷地の中で、どの程度の規模まで大きくできるのか。 →建物の規模については、その土地に設定されている建ぺい率、容積率による。都区内の学校では、高層化もされており、エレベータが付いている事例もある。 ・全国では、先進事例が沢山あると思うので、是非参考にしていきたい。 ・児童・生徒数の減少により、学校には空き教室があるのではないかな。今後、この空き教室を有効に活用して欲しい。 ・上藤沢中学校を藤沢南小学校の場所へ移す場合、グラウンドの広さに差がないのか。中学校は、部活動があるので、やや広いのではないかな。 →上藤沢中学校の敷地面積が 2.8 ヘクタール、藤沢南小学校の敷地面積が 2.1 ヘクタールとなっている。同小学校周辺には、空地もあるので、買い足すことが可能ではないかと考えている。 ・公民館を訪れると、まず座る場所がない。ベンチやサロンの設置をお願いしたい。 →この件は、他の地区でも意見をいただいております、施設整備の際、検討したい。 ・地区のグラウンドについては、ベンチや観覧席を含めて整備して欲しい。 →グラウンドは、建物ではないため、再整備・再配置の対象とはしていないが、担当部署に意見を伝える。 ・老人憩いの家は、イスの方が良い。市（事務局）が示す自治会への譲渡は、考えとして良いと思う。 →自治会への譲渡は、実情に応じて施設ごとに検討する内容になる。 ・サロンの話が合ったが、公民館で、子ども達が勉強をしたり、ゲームをしているのを見かける。机やイスを配置すれば、子どもが集うのではないかな。 →限られたスペースの中で、有効に配置する方法を検討したい。 ・公共施設の整備に民間活力の活用は可能か。 →民間活力の活用例として、PFI がある。近隣では、学校給食センターでの導入がある。市としても、施設の管理運営、資金調達の面から検討の一つとしている事項である。	

- ・既存施設を活用することを考えると、小学校は、藤沢東小学校が適当ではないか。現在でも防犯パトロールなど、地域の見守りを高齢者が行っているが、今後、高齢者人口が増えるので、引き続きできれば良い。通学距離が長くなる児童もいるため、防犯灯の整備も合わせて行う必要がある。
 - ・児童数の推移を見ると、小学校を1つにしても充分やっていけることが分かった。
 - ・小学校の複合化は、全校で実施するのか。施設規模的に間に合うのか。
- 9校全校で実施する予定。規模については、学校図書室と地区図書館を一緒にする。また、学童保育室、地域交流スペースを配置したい。図書室も学童保育室も既に施設（敷地）内にあるケースが多く、大幅な面積（規模）増加にはならないと考えている。ただし、児童の安全面に配慮して、一般市民が簡単に校舎に行くことができない構造にしたい。
- ・今後の人口減少を考えると、保育所や学童保育室を整備（充実）して、人を呼び込む努力も必要ではないか。
 - ・自治会集会場は、あまり利用されていないように感じる。一般に開放したらどうか。
 - ・自治会館については、自治会によって、使用料を聴取して貸し出している。

第3回地区懇談会（藤沢第一地区・藤沢第二地区）の概要	
日 時	平成29年9月26日（火）午後7時～午後9時
場 所	藤沢公民館
出席委員	井上雅子委員 梅山正一委員 木下英次委員 串田俊介委員 齋藤勝久委員 齋藤熊平委員 永松憲一委員 藤岡直一郎委員 宮原久助委員 柳田淳志委員 山口敏郎委員 横田敦委員
欠席委員	なし
出席委員	臼井秀委員 喜入康文委員 齋木宏之委員 関谷善徳委員 羽鳥貞夫委員 松下庄一委員
欠席委員	青木友史委員 阿部征雄委員 後田博文委員 小山輝久委員 佐藤トク子委員
傍聴者	5名
○委員意見 ・東藤沢小学校には、東藤沢3丁目から8丁目の児童が通っている。中学校は、西武鉄道の線路を境に分かれてしまい、同じ小学校に通っていた児童が中学になると2つある中学校に分かれてしまう。事務局が示した上藤沢中学校を現地より東側の土地（藤沢南小学校を想定）に移れば、上手くいきそうに感じる。中学校で分かれることがない方が良いと思う。 ・学区について、現在、藤沢第1地区は、藤沢中学校と向原中学校に分かれているが、小中一貫教育を行うのであれば、中学校はどちらか1つにした方が良い。ただし、地区として、分けた方が良いという意見も聞いている。 →児童・生徒数を意識して学校の再編成を行っていききたい。 ・学校の再編には、児童・生徒の意見を聞くことも必要ではないか。 ・老人憩いの家は、バリアフリー化がなされていない施設もある。自治会に譲渡する際は、バリアフリー化して欲しい。階段はきつい。 →施設の取扱いについては、実情を踏まえて検討したい。なお、地区センターにも地域の方が憩う場所にしたいと考えている。 ・施設整備を行う上では、距離の問題もあるが、不便にならないよう配慮して欲しい。 ・小学生（特に低学年）にとって、4kmは遠い。学校数を維持してサテライト化するというのはいかがでしょうか。先生方が各校を移動すれば、うまく機能するのではないか。 →学校の再整備については、文部科学省も力を入れており、動向を見ていきたい。 ・市民生活において、全てが藤沢地区内で収まれば良いと思う。第1地区、第2地区を便宜上分けているようだが、学区や自治会の区割りなどを制限するものではないため、抵抗はない。 ・人口ビジョンを踏まえると、公共施設の集約により人口減少にさらに影響しないか懸念がある。	

- ・広域対応施設については、市の中心部に建設する必要はないのではないか。施設は、種類ごとに集約した方が良いものと分散した方が良いものがある。
 - ・自治会館は、地元住民用で利用率が低い。公民館は、部屋が空いている時間自由に使って、集会などできると良い。今後、自治会館を地元が持ちこたえられなくなる懸念がある。公民館と自治会館、老人憩いの家を整理すれば、上手くいく。
 - ・せっかく近くに東京家政大学があるので、一緒にまちづくりや人口減少など（学生の定住なども含めて）に取り組んではどうか。
 - ・地域の集会所は、なるべく身近にあって欲しい。また、藤沢地区の交通網について、地元で考える機会ができると良い。
 - ・上藤沢中学校の評判は良い。移転や複合化などで、環境が変わった場合、影響が出なければ良いと考えている。子ども達のためにお金を使うことは良いことだと思う。大人の考えだけで、方向性を判断すべきではない。
- 教育環境の充実は、目標になると考える。
- ・藤沢地区の小中学校は、連携が図れていて良い。さらに、中学校同士の連携も図れている。学校の統廃合と学校区の話は別だと思う。
 - ・学校については、学校区という考え方から、住民が自由に選択できるセレクト性にしたらどうか。
- セレクト制の場合、次年度以降の児童・生徒数を把握することができない可能性がある。このことで、教員の数が変わる可能性がある。
- ・計画を策定する上で、入間市の20年後、30年後は何を目標としているのか明示しておくが良い。
 - ・公共施設マネジメントについても、自然体または地域のビジョンがあって、取組を進めた方が良いと思う。
 - ・施設ごとに、利用者間で施設のあり方を考える機会があると良い。また、行政も、住民や利用者の実情を聞くと良い。
- 公共施設マネジメントについては、現在、地域の実情を聞いて、30年間の大きな枠組みを作っている状況である。こういう機会は、今後とも必要だと感じている。

第4回地区懇談会（藤沢第一地区・藤沢第二地区）の概要	
日 時	平成 29 年 10 月 18 日（水） 午後 7 時～午後 9 時
場 所	健康福祉センター
出席委員①	井上雅子委員 木下英次委員 齋藤勝久委員 齋藤熊平委員 永松憲一委員 藤岡直一郎委員 宮原久助委員 柳田淳志委員 山口敏郎委員 横田敦委員
欠席委員①	梅山正一委員 串田俊介委員
出席委員②	阿部征雄委員 後田博文委員 臼井秀委員 小山輝久委員 齋木宏之委員 羽鳥貞夫委員 松下庄一委員
欠席委員②	青木友史委員 喜入康文委員 佐藤トク子委員 関谷善徳委員
傍聴者	6 名
○委員意見 ・藤沢地区は 2 地区に分けないで、1 つで公共施設の再配置を考えて欲しい。公民館は地区センター化で良いと思う。課題としては、駐車場の問題があると説明があったが、藤沢公民館は現在、100 台以上駐車可能であり、現状で問題ないと思う。藤沢地区の中心にあり、利便性を考えても良いのではないかと思う。 ・藤沢地区には、公民館が 3 箇所ある。東藤沢地区のうち、国道 463 号（行政道路）の東側の地域（1 丁目と 2 丁目）は、3 丁目以降と区分けして、藤沢第一地区に入っている。敬老会の行事を開催するときに 1 丁目と 2 丁目（一部大字下藤沢も混じっている）の住民は、藤沢公民館が割り当てられ、市のバスを借りて送り迎えをしてもらっている。1 丁目と 2 丁目の住民については、より身近な東藤沢公民館を利用してもらった方が良いのではないかと考えるので、今後区分を検討して欲しい。 ・10 年以上前に長野県諏訪市へ行った際、複合施設の中に支所機能、介護保険機能が存在し、保健師が配置され健康相談ができるようであった。この施設へ来れば、日常生活に必要なことがある程度でき、複数の施設を回らなくても済む。この事例のように、必要な機能を充実させないと、地区の拠点としては機能不足である。 →1 回目の藤沢第一地区の懇談会で、長野県飯田市の事例として、自治振興センターを紹介してもらった。その施設に行けば、手続き等が一通りできる。現時点で考えている地区センターは、公民館の機能に加え、支所機能、自治振興支援機能、福祉の相談窓口、地域包括支援センターを複合化したいと提案している。 ・藤沢地区内には、公民館が 3 箇所あって、全部の施設に支所機能を配置することは難しいと思う。建物が 3 箇所残るのであれば、市の職員が巡回するような形式で、住民を動かすのではなく、IT 技術の活用や職員が現場に出ていくという考え方に切り替えると自由度が広がっていくのではないか。福祉の問題を考える際、社会福祉協議会と地区センターという組合せで、住民が揃って話をする（コミュニケーション）という視点は大事である。そういう意味で飯田市事例を提示した。この事例	

のように、運用において配慮すれば、より充実したサービスが提供できるのではないかな。

- ・東藤沢地区の地域包括支援センターは、東藤沢 1 丁目 2 丁目まで対象にしている。藤沢の地域包括支援センターと比べると、区割りが違っている。そこも含めて今後考えてもらいたい。

→地区センターを市内 9 箇所に展開していく中で、地区センター化しない施設（公民館）も出てくるが、地域の方に活用してもらう施設として残していく考え方である。地区センター化しない施設についても、単なる部屋貸し機能だけではなく、地区センターに配置された職員が、施設（場所）を活用して、社会教育事業をするということは考えられる。

- ・東藤沢公民館は、出張所であるため、支所と比較するとサービスの範囲が狭い。支所機能が入れば、住民の利便性が高まる。

→地区センターでは、本庁と同一のサービスを提供できるように考えていきたい。IT 化も含めて、コンビニエンスストアの活用もあわせて考えていく。

- ・図書館分館は地区センターから分離して小学校と複合化する案だが、小学校とした理由を聞きたい。藤沢公民館にある図書館分館はとても便利である。小学校へ移した際の不便さは分からないが、土・日曜日使えないのではないかなと思うと地区センター内の方が良いのではないかな。地区センターに配置する機能にもよるが、現在の藤沢支所には、豊岡地区の住民も来る。本庁舎では手続きに時間がかかるため、少し遠くても藤沢地区に足を運んでいるようだ。地区センターの機能を良く考えるべきだ。

→小学校を選択した理由は 2 つある。1 つは、小学校の図書室の充実が図れないという課題がある。司書は先生が兼任しているが、図書が中々購入できないため、一時的に図書館本館から貸し出しを行っている。金子・藤沢・西武地区は、図書館分館が整備されているが、全地区には配置されていないため、以前から公民館に図書館分館機能を配置していく構想があったがスペース等の問題もあってできていない。それを一体的に考えて小学校に整備していくのが良いのではないかなというのが今の案である。

- ・図書館分館は、中学校へ複合化するというのはどうか。利用面を考えると中学校の方が良いのではないかな。

→小学校は図書館分館だけではなく、学童保育室や地域交流スペースなど、他にもいくつかの機能を複合化していこうと考えている。児童に対する安全面の問題も考えなくてはならないが、建替えのタイミングで同じ敷地内に別棟で建設すれば要件を満たすことができる。中学校の場合は、部活動のこともあって、グラウンドや体育館を含めると、生徒が利用している時間が長いということに配慮した。こうした状況から、複合化については小学校の方が良いと考えている。

- ・統廃合で藤沢南小学校がなくなり藤沢東小学校に統合するということだが、30年後の児童数が鍵になる。配置は現在のままで、校舎（施設）を縮小すれば良いのではないかと思った。例えば、3棟ある校舎の1つを除却し、学校敷地は維持して統合しないのはどうか。
- 他の地区では、校舎の縮小案というのはなかったが、小学校と中学校を統合するという案や、サテライト（分校）化といった案も出ている。子どもの通学距離の問題はあるが、経費の問題もあり、残す学校を充実するためにも、施設数を縮減する必要がある。統廃合を検討する際は、いくつかの手法を比較検討していきたい。
- ・藤沢東小学校の校長先生と話をしたところ、創立が昭和51年で、現在、42年経過しているということであった。校舎を維持していくためには長寿命化工事が必要である。建物を評価する際、トイレが重要なポイントになる。トイレが古い、きたない、臭うというのが現実問題としてあり、真っ先に改善に取り組んで欲しい。以前からエアコンの問題があったが、今年10月に取り付けてもらい皆が喜んでいる。雨漏りなどの基本的な事項も改善しながら、1つずつ進めて欲しい。一般家庭のトイレは様式であるため、子ども達は和式トイレにギャップがあると思う。
- トイレの課題は十分認識している。未だ多くの学校の改修ができていない。1棟の1系統を改修するだけで約6,000万円の費用がかかる。学校は、小中合わせて27校あるので、毎年かけられる経費にも限度がある。
- ・3回目の地区懇談会が終わった後、安川通りから、国道463号バイパス、向原中学校を通過して、藤沢小学校まで歩いてみた。教育委員会が数年前から小中一貫教育を先駆けて実施しているが、小中一貫教育をこれからも進めるのであれば、学校区を無くして地域で分けるという方法も考えられる。懇談会では、20年後、30年後のことを話しているが、可能であれば中学生や高校生といった若い世代を入れて議論をしてもらいたい。
- 他の地区でも同様の意見をもらっているので今後考えていきたい。
- ・学校を複合化すると、様々な人たちが出入りをするようになる。近年、色々な事件がある中で、安全面に十分な配慮をしていただきたい。現代の子どもたちは、公園で球技や大声を出すこと等の制約を受けて遊んでおり、可哀想である。学校には、広い校庭があるので、地域の人たちが利用できる方法を考えていった方が良い。
- 複合化で、一番の課題は安全面である。先行事例は増えてきているので、参考にし、安全な方法でサービス提供できるようにしていきたい。
- ・下校した後で、子ども達が校庭で遊ぶということは少ない。中学生が小学校の校庭を利用してバスケットボール等をしているのは見たことがある。地域の公園を管理している立場からすると、近所の公園は、草が生い茂っているが、地域住民が管理をしきれなくなっている。自治会内に3箇所公園が存在するが、このうち1つの公園はほとんど利用されていない。しかし、自治会としては管理しなくては

ならない。都市計画課にお願いして草刈をやっていただいている。自治会では管理に苦慮している。公園の状況も把握してもらいたい。

→公共施設マネジメントの中に公園は含まれていない。その課題については担当部署に伝え検討してもらう。

- ・統合ありきで話が進んできたが、縮小することもいいのかなと思った。学校を地区センター化して、公民館機能を学校にもってこることで拠点化される。現在、我々が議論している内容は、50年後もまた同じ話をしていると思う。小学校もいずれは建て替える必要があり、他の施設も同じような状況である。それを考えるのであれば、費用は度外視して1つの拠点にしてしまった方が良い。統合とか学校区の内容で校長先生などの意見は聞いたことはあるのか。

→公共施設マネジメントの取組については、これまで、校長先生に説明している。一人ずつヒアリングしたことはないが、それぞれの先生方で意見は違うと思う。いただいた意見の中には、少ない中学校について統合はやむを得ないという意見が多かった。ただ、小学校については児童・生徒数が少なくなっても、ある程度今の配置を維持していきたいという意見が多い。学校区については、あまり意見はなかった。

- ・毎回、学校の問題が出るが、15年後は市内全体で、1校分生徒が減るイメージであり、さらに50年後には市の人口が9万人になることも考えられる。そうすると、小学校・中学校1校しかもてない市の財政状況になることも考えられる。30年後、40年後どうなるかの話をした方が良い。地区懇談会で、色々意見が出るのは良いが、現在の話をして意味がない。20代30代の人に参加してもらい議論した方が良い意見が出ると思う。

→30年間の計画を立てるにあたり、30年間の市全体の児童・生徒数の推移もあるが、地区によってバラつきもある。形式は決まっていないが、若い世代の意見を聞く機会をつくっていきたい。

- ・今の学校の配置は、40年、50年前に考えられたものだと思う。急激に人口が増加し、無理して建設した面もある。統廃合ありきではなくて、30年先の人口のビジョンを考えるとともに、さらに先を見据えた施設のあり方を考えていかないとけない。2つの学校の中心に新しい学校を建設しようという考え方もある。市外から入ってくる人は教育に関心があると思う。学校に対する市の考え方をPRし、人口増につなげて欲しい。

→公共施設を地域の中間点に集めるという意見は出ている。その際、建設用地が確保できるかという問題は残る。

- ・30年後に現在の線引き（市街化調整区域）がどうなるかは分からない。線引きが変われば、人口の移動は変わってくるのではないかと。藤沢南小学校には新しく学童保育室を建設している。（藤沢南小学校を統廃合する中で）市の施設整備は、一貫性がないように感じる。

- ・今後、市の人口が 9 万人に減っていくことが推計される中で、公共施設マネジメントの仕組みをどうしていくかを考えている。この中で、子どもの教育を柱として考えたかどうかと以前提案させてもらった。効率化というのは、中央に集めて大規模化していくというのがこれまでの考え方であった。しかし、今後はその逆である。サービスを分散化して、生活の現場に近くする。地区内に 3 箇所ある公民館に行政機能をもたせることは当然だが、それ以外に小学校にも行政の機能をもたせていく。現場ごとに生活を支える機能にする。サービスの考え方を確立しておけば、人口変化に対して施設を適応していくことができる。それが大事だと思って今まで懇談会に参加してきた。
- 公共施設マネジメントは、ハードウェアの面だけではなく、サービスの見直しについて考えていかななくてはいけない。この部分が重要なことだと思う。どういう形が良いか答えは出ていないが、それぞれの地域で、施設の配置等も含めて必要なサービスをどこで提供するのか、配置の見直しを含めて検討していきたい。
- ・昔の「村」では、神社と学校は地域の拠点であった。中学校の統合は仕方ないが、土地の問題が許すのであれば、小学校は地区ごとに沢山あった方がよい。規模の問題もあるが、小学校に行政の機能を持たせて、地区の拠点にするイメージでできないかなと思う。以前、サテライトといったのは、子どもたちを学校に集めるのではなく、先生や市の職員が地域や施設に出向くという発想も大事であるということである。
- ・できるだけお金をかけることなく、どれだけの公共施設を維持していくことができるのか、そうすると今の学校をどこかにまとめていくという選択をしていかなければならない。学校区については、セレクト制にすると、学校ごとに児童・生徒数の偏りがでることも考えられるため、ある程度のしぼりは必要である。行きたい学校をある程度のしぼりの中で選択していく方向性があっていい。藤沢は幼小、小中、中中連携という面で素晴らしい地域になっている。こうした良いところを活かしてもらいたい。坂戸市に小中一貫校として城山学園がある。子どもたちが小学校に入学してから小中の連携は良いらしいが、9 年間メンバーが変わらないというところが欠点である。また、9 年間 PTA の役員になるのでやり手が中々見つからないようである。我が家の子どもたちは本来の図書館の設置目的とは異なるかもしれないが、図書館で勉強している。学校へ複合化した場合、勉強する場所としての機能が損なわれることはないのか。特に土・日曜日の対応を含めて検討する必要がある。
- 子どもの居場所づくりという視点で、図書館だけでなく勉強の場も含めて考えていく必要がある。現在、図書館がそういう学習の場になっていることは認識している。それが本館だけでいいのか、地区館（分館）にその機能を求めるのか。勉強の場は図書館が相応しいのか等の視点で考えていきたい。
- ・様々な良い意見が沢山出ているが、施設整備は一遍にはできないし、直ぐにできる

- ものとできないものがある。年次計画のような計画はいつできるのか。
- 地区懇談会での意見を踏まえて、原案を作成する。現在の予定では今年度中に大きな枠組みの計画を策定したいと考えている。それに基づき個々の施設の整備計画を次の段階で作成していこうと考えている。中々、20年後、30年後に想定していたようになっていくかは分からないため、10年単位で見直しを図っていきたい。市民全ての意見を実現できる案を作成することはできないので、対案も示していく予定である。計画の中では、実際の整備が20年後であれば、それまでの間に検討していくという施設もある。今回は、大きな枠組みとなる計画としていきたい。
- ・計画ができれば、委員に配布してもらえるのか。
- 原案がまとまった段階で、委員の皆さんに郵送してご覧をいただきたい。また、それに対して意見があればお寄せいただき、その後一般市民を対象に説明会やパブリックコメントを開催したい。
- ・近所の方は20代から30代後半が多い。藤沢北小学校に坂を登って通っているので、小学1年生には辛い。不便な場所に引っ越してきたという声を聞いた。学校の配置や学校区は、児童・生徒数のバランスを保ちながら検討すると思うが、今後学校の統廃合があるということを知らない人もいるので、現場の声を聞いて欲しい。施設を利用している人は残して欲しいと言うし、利用しない人は無くても良いという考え方になる。このような傾向はやむを得ないとも思うが、健康長寿を目的としている体育協会の立場としては、地区体育館を残していただきたい。
 - ・人口が減っていくのは分かるが、テレビで取り上げてもらえるような魅力があるまちということで、人口を増やすことも考えながら、小中一貫教育を超える何かに取り組んでもらいたい。限られた財政の中でやらなければならないことは理解するが、そういうことも含めて20年、30年先を考えていかななくてはいけない。
- 人口減少対策や、まちの魅力という意見は、多くの方から意見をいただいている。施設というハードウェア的な部分だけではなく、ソフトウェアも含めての魅力づくりを考えていきたい。ソフトウェアの魅力を活かすためにハードウェアをどう整備していくかといった視点も必要である。
- ・行政には、収益をもたらす部署はあるのか。行政は収益を上げてはいけないのか。
- 収益の概念に違いがあるかもしれないが、例えば税収を増やすために企業誘致を行うことや、移住を促進することなど、それぞれの部署で行っている。何かを販売して収益を出すことや、施設を何でも有料にして収益を上げるというのは難しい。
- ・公民館に売店機能があったら良い。例えば、コンビニエンスストア機能も一部取り入れれば活性化できるのではないか。行政だけでサービス提供するのではなく、民間の活力を使って収益を上げれば、価値があると思う。発想の転換も必要である。
- 公共施設を広告事業の掲載の場として提供することや、民間のコンビニエンスストアに入ってもらい賃貸収入を得ることなどの取組みは各自治体で始まっている。是

非、参考にしていきたい。

- ・老人憩いの家については自治会に譲渡を検討しているのか。
- 実際、自治会と共用で使われている施設もあり、老人会の利用よりも自治会の使用が多い場合もある。施設は、老人会で使っていただくのが前提で、使わなくなった時に地域の要望があれば自治会への譲渡も考えるといった意味合いである。
- ・地域によって考え方がずいぶん違うと思う。公民館がある場合、集会所（自治会館）を自分で開けて、暖房を入れ、机を並べてやるよりは、市が管理している公民館の方が使いやすい。
 - ・藤沢地区で長生会が 9 つある。このうち、2 つは自治会と一緒にやっている。先を見据えると自治会と一緒に運営していった方が良いと思う。
 - ・老人会で一番困っているのは建物ではなく、人である。会員の減少はあっても増加はほとんどない。老人憩いの家をどう存続させるかの前に、人の数をどう確保するかが先である。現在は、自治会に協力をしてもらい成立している。
 - ・区によっては老人会を知らないところがある。PR の方法や、高齢者になって、自然に入会できるような仕組みを考えていかないといけない。
 - ・9 地区あるうち、藤沢第一地区だけ老人憩いの家がないため、組合の事務所を借りるなどして、会議や新年会、忘年会、懇談会等を行っている。藤の台公民館がなくなったら本当に何もできなくなる。
- 実態として伺っておきたい。
- ・公会堂や自治会館は各自治会の所有なのか。市として、修繕など財政的な支援をしていないのか。施設の 30 年、40 年後を考えると、ほとんど老朽化して、地震がくると崩れてしまう。老人憩いの家も同様なことが言える。自治会に譲渡となると、自治会の負担も大変なことになると思う。8 区は建て替えるための資金を貯めているが、自治会では対処できないのではないかと思う。市の援助がないと厳しい。
- 自治会の集会所については補助の仕組みがあるので、所管課である自治文化課に申請をしてもらい対応できると思う。
- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略の中に、「元気なこどもが育つまち」を掲げているが、この通りに実施してもらえれば良いと思う。